

名古屋からUターン

加藤さんご一家

大田市空き家バンクで中古住宅を購入！

空き家改修事業を活用

大田市では、市内にあるまだ使える空き家をUターナー者などへの定住対策

に活用するため、平成21年度に「空き家バンク制度」を創設しました。

これまでに約60物件が成約に至り、150名を超える

みなさんが大田市へ定住しています。

また、市ではUターナー者などが「空き家バンク制度」に登録している空き家を、定住を目的として改修する場合に、改修費用の一部を助成しています。

加藤さんご一家は、これらの制度を利用して中古住宅を購入。平成23年12月、名古屋から大田市波根町へUターンしました。



建築年：昭和54年
宅地面積：約100坪
建物面積：約50坪
購入費用：約600万円（土地込）
改修費用：約500万円
（浴室、洗面脱衣所、トイレ、内壁などをリフォーム）



↑浴室は少しスペースを広げてシステムバスに改修し快適に。名古屋のショールームで購入。浴室乾燥機があり、雨の日のお洗濯も大丈夫

洗面脱衣所も明るく清潔な感じにリフォーム



→地元左官に波根町の海のイメージで仕上げてもらった漆喰の壁は正子さんのお気に入り



←男女別だったトイレを1つにして広々とした空間に。手すりも付け、高齢者も安心して利用できる

『ふるさと、島根に帰って』

加藤 正子

高校を卒業して、名古屋で看護師として働き、子育てをしながら34年間暮らしてきました。将来に備えて親との同居を考えていたところ、息子の「島根で暮らそう」の言葉で引越しを決めました。私は松江で生まれ、父の転勤で大田へ約8年、そして、高2の時に祖母の介護のため江津で約2年間暮らしていました。

引越し先を決めるにあたって、私が学童期を暮らした大田の町がいいのではないかと家を探し始め、大田市定住サイト『どがどが』で波根町の住宅を紹介していただきました。

名古屋からの引越しで、手続きやわからないことなど親切丁寧に説明をしてくださり、安心して準備を進めることができました。

また、大田市空き家改修事業補助金を受けて、浴室・洗面所・トイレの改修をしました。

大田で暮らし始め、懐かしい通学路や放課後遊んだ公園を歩いたり、同級生と再会し昔話に花を咲かせました。また、町の家並みや景観は変わったところ

もあり、町のおいしいお店などの新しい情報をいただきました。

波根の家は、前に住んでおられた方が裏庭にたくさんのお花を植えておられたので、四季折々の花が咲きます。晴れた日の夜には満天の星空をおおぎ、海からの風が季節の移り変わりを知らせてくれます。ここでは、都会では感じられなかった自然が、心を癒してくれます。

夏には波根町のエコ・アド・ツアーに参加し、海上から自然の神秘に触れる体験をしました。長年の月日を経て、波で作られたといういくつかの洞窟からは自然の力のごさを知ることができました。

現在、島根県立農林大 学校2年の三男は今春卒業し、地元の牧場に就職予定です。次男は土地に慣れ、夢をかなえるため

の仕事探しをしています。

私自身は、名古屋で数年間、訪問看護師として在宅療養をされている方をサポートしていました。こちらでは、久しぶりに病棟勤務となり、三交代や仕事に戸惑いながらも、職場の皆さんの指導や援助を受けながら働いています。

趣味の活動として、久手まちづくりセンターでのコーラスに参加したり、ちよつと足を伸ばして、音楽会やイベントに出かけたりして楽しみを見つけることができました。

昨年は、波根海岸で開かれたキャンドルナイトや心温まる作品が出品されていた文化祭など、少しですが地域の行事にも触れることができました。これからは、地域の行



写真提供：(株)宝島社 『いなか暮らしの本』
左から加藤春樹さん（次男・21歳）、正子さん（53歳）、江津市在住の母親の大谷和子さん（78歳）、智昭さん（三男・20歳）。市内で寮生活中の智昭さんもうずれ一緒に住む予定

事に積極的に参加するなど、生活の輪を広げ、新しいふるさと創りをしていきたいと思っています。

また、息子たちが生まれ育った名古屋も、私にとっても大切なふるさとです。

島根県・大田市に住んでいてもまだまだ知らない名所など多くあります。ふるさとを歩きながら、新しい発見や情報や島根から名古屋へ発信したり、交流をしていきたいと思っています。



たてがみいわ 立神岩と たてがみしま 立神島（波根町）
「続いていたと思われる島が離れていても、歴史を示す地層は続いているように見え、家族の絆と静岡（浜松市）で漁師として働く長男の海の安全を祈ってるんです」と正子さん